

発刊に当たって

21世紀は、いわゆる「知識基盤社会」の時代と言われ、我が国においても、次代を担う科学技術系人材の育成と同時に、国民一人ひとりの科学に関する基礎的素養の向上が極めて重要となっています。

一方、日本の子どもたちの理科に対する関心の低さは、これまでの国際調査においても指摘されており、先日公表されたTIMSS2011の調査結果によると、理科を学ぶことの意義や有用感に関して国際平均と比べて極めて低い傾向が改めて浮き彫りになっています。

平成20年の中教審答申においても、科学技術の土台となる「理数教育の充実」を図ることが喫緊の課題とされ、この答申に基づき、観察・実験や自然体験・科学的な体験及び探究的な学習活動の一層の充実を図るため、新しい理科の学習指導要領が、一昨年4月からは小学校で、昨年4月からは中学校においても全面実施され、高等学校においては本年度より理科と数学について新入学生から先行実施されているところです。

北海道立教育研究所附属理科教育センターでは、この理科教育の充実のための取組として、新学習指導要領に対応した理科研修講座や、小学校理科教育に関する校内支援プロジェクトを実施するとともに、小学校理科指導資料集DVDなどの各種教育資料を作成して参りました。さらに、自然の事物・現象に対する興味・関心や探究心を高める教材及び科学的思考力を育成するための学習プログラムを開発し、本年度からは「地域の自然の特性を生かした教材を効果的に活用した問題解決的・探究的な学習プログラム」の研究を開始したところです。

本研究紀要は、平成24年度に当センターの職員及び研究連携校の担当者が取り組んだ調査研究並びに当センター職員の支援の下、フリープラン研修受講者が取り組んだ教材開発等の成果をまとめたものです。また、何かと御指導いただいてまいりました国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部総括研究官後藤顕一様からは特別寄稿をいただきました。心より感謝申し上げる次第であります。

最後になりましたが、本研究紀要が、各学校における教材研究や研修会、創意工夫を生かした理科の授業など、様々な場面で活用され、本道の理科教育の振興に広く役立てられることを願い、発刊に当たってのご挨拶と致します。

平成25年3月

北海道立教育研究所長

酒 向 憲 司